

委員会等の会議録

1 会議名	第1回愛南町自殺対策検討委員会	
2 議題	第2次愛南町自殺対策計画について	
3 開催日時	令和3年9月30日(木) 10時00分から11時15分まで	
4 開催場所	愛南町役場 3階 議員協議会室	
5 傍聴者数	0人	
出席者		
6 委員氏名	長野 敏宏、佐尾 貴子、黒田 智弘、保田 耕作、齋藤 弘文、湯浅 裕記、野平 真一郎、土居 純子、尾川 美保	
7 担当所属	所属名	保健福祉課
	担当職員 (職・氏名)	課長 幸田 栄子 課長補佐 中川 菊子 石井 ゆかり 池田 奈々 保健師 森岡 芙々紀
8 その他の 出席職員	所属名	
	出席職員 (職・氏名)	
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
幸田課長	(開会挨拶)
中川課長補佐	(資料の確認)
中川課長補佐	<p>本会議の協議内容につきましては、要綱に基づき、ホームページで公開させていただきますので、御了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>自殺対策検討委員会の検討事項は、「①愛南町の自殺対策計画策定に関すること」「②関係機関の協力支援体制づくりに関すること」「③自殺対策推進に関すること」「④その他の自殺対策を検討するために必要な事項に関すること」となります。今年度は、自殺対策計画策定年度に当たりますので、今回を含めて年2回の開催を予定しています。</p>
中川課長補佐	(委員紹介)
中川課長補佐	では、協議事項に入る前に事務局から趣旨の説明をさせていただきます。資料1を御覧ください。
石井課長補佐	(資料1について説明)
中川課長補佐	只今事務局から説明のありました策定の趣旨等について、御質問はございますか。
委員一同	(意見なし)
中川課長補佐	では引き続きまして、協議事項1の「自殺対策計画の構成表について」を事務局から御説明いたします。
石井課長補佐	(協議事項1について資料2により説明)
中川課長補佐	只今事務局から説明のありました構成表について、御意見や御質問はありませんか。
委員一同	(意見なし)
中川課長補佐	では続きまして協議事項2の「自殺対策計画骨子(案)の第1

発言者	発言内容
石井課長補佐	<p>章から第3章まで」について御説明いたします。</p> <p>(協議事項2について説明)</p>
中川課長補佐	<p>只今、第1章「計画策定の基本的事項」、第2章「愛南町における自殺の状況」、第3章「愛南町における自殺対策の取組みと評価」までの御説明をいたしました。内容について、御意見や御質問はありませんか。</p>
長野委員	<p>若い方の自殺が多いことも含めて、分岐路にあるのが高校時代のような気がする。高校との連携をかなり工夫しないと、校則違反や退学に対して入っていけない。愛南町外の学校に行かれる方も増えてきている。大人になって自己責任が問われるようになってきて、何となく離れてしまってる方がすごく多い、ちょっと工夫が要る気がします。</p>
池田課長補佐	<p>母子保健に関してではありますが、問題解決についての話を授業でさせていただくとともに、高校3年生に向けて「新生活応援BOOK」という冊子を配布して、性の悩み、心の健康、メンタルヘルスについてもお話をさせてもらっています。その際には、高校の養護の先生とも、お話をしながら進めているような状況で、企画としては、年に1回の予定ですが、高校からも希望を言っていただけるような関係が少しずつできているのが現状です。長野先生からのお話もいただきましたので、今後また先生方とも協力しながら、自殺対策についてもお話ができればと思っています。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございました。その点についてもまたこちらのほうで検討させていただきます。</p>
長野委員	<p>心配なのは校則違反で中退してる子たちだと思う。自殺はメンタルの病気ばかりで起きるわけではないので、中退になろうとしている、学校の仕組みに相談に乗ってこない方々へつながる仕組みがあるとありがたいなと思います。</p>
佐尾委員	<p>長野先生からの御提案、保健所の思春期相談での関わりから見ても同じような傾向がございますので、ぜひお願いできたら</p>

発言者	発言内容
中川課長補佐	<p>と思います。</p> <p>それと、7 ページ(4)生きることへの促進要因への支援、保健所の仕組み、支援体制を活用して市立宇和島病院との連携を確認したってという辺りを取り上げていただいているんですけども、地元の医療機関との連携はいかがでしょうか。</p> <p>消防から協力が得られるようになって、未遂者の連絡をいただく形ができつつあります。身近な医療機関との連携では、県立南宇和病院と今後連携を深めて行けたらと思います。また保健所と一緒に、取組が進められたらと思っております。</p>
佐尾委員	<p>ありがとうございます。愛南町は、自殺対策だけではなく、地元の医師会や医療機関との連携が、ほかの事業においてもスムーズによくできている町だと思っておりますので、ぜひ一緒に取り組んで行けたらと思います。よろしく申し上げます。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございます。よろしく申し上げます。</p>
湯浅委員	<p>5 ページの 4 番、自殺者の原因と動機別構成比のところなんですけれども、原因のなかで「不詳」というのが突出している。不詳というのは、完全に原因が分かってないのか、その他の中に入れてもいいようなものも含めてなのか。原因が分からなければ、対策を講じることがなかなか難しい。原因の究明というのは、なかなか難しいと思うんですけども、不詳の内容について分かることがあれば言ってもらったらと思います。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございます。この統計については警察庁統計から出しておりますもので、自殺者があった際、そこで聴取した内容で原因が分かったところが分類されているんですけども、はっきり分からないところで 57.1% 不詳ということになっているようです。</p>
黒田委員	<p>警察としても、例えば遺書や亡くなる前の本人の言動等で動機が特定できれば上げているのですが、それ以外で、推測されることはあるにせよ確定できないことに関しては「不詳」として統計をとっています。なぜ愛南町で多いのかは分からないんですけど。確定的な言動や遺書等ははっきりしたものがない場合</p>

発言者	発言内容
中川課長補佐	<p>は不詳になってしまうと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございます。特定できないものに関しては数値が出ているんですけども、自殺に至るまでに止めることができなかつたのか、支援やそれを止める関わりができる人はいなかつたのかという辺りは、原因が特定できなくても周りの関係性等というところは確認ができていくと思います。その辺りはまた検討したいと思います。</p> <p>ほかに御意見はないでしょうか。</p> <p>それでは、骨子案の第4章から第6章について、池田から御説明いたします。</p>
池田課長補佐	<p>(骨子案第4章から第6章について説明)</p>
中川課長補佐	<p>只今御説明しました、第4章から第6章につきまして、御意見や御質問はございませんか。</p>
野平委員	<p>生活保護を紹介して該当しなかつた場合に、そのあとの関わりが少し難しいと感じているところです。そのあとの支援というのも何か、悩みを解消できるようなネットワークがあればいいと感じております。以上です。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございます。今、複合的な問題を抱えておられる方がありますので、経済的な問題と、生活に支援が必要な方に重層的に関わったり、ネットワークの中で解決したりできるような体制を、今後も検討して行けたらと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>民生委員さん、御意見いただけますでしょうか。</p>
齋藤委員	<p>私たち民生委員は、1年に1回高齢者の各家庭の見守り、相談、最終的にどこに連絡をしたら良いか等の調査を行っております。来月から、各地域1件1件回って、今、病院にどういう状態でかかっているのかとか、最終的な誰か身寄りの方がいるのかとか、徹底して調査をしています。以上です。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございます。地域の方からの相談や、寄り添って見守りをさせていただいて、大変有難い存在です。また御苦労も</p>

発言者	発言内容
土居委員	<p>あるかと思うんですけども、よろしくお願ひします。 学校教育課 土居さん、お願ひできますか。</p> <p>学校教育課では、希望する小中学校については SOS の出し方教育を実施していただひています。好評を得ているようですので、引き続きの開催をお願ひできたらと思ひます。また教職員については、定期健康診断に合わせてストレスチェックを実施して、その際には相談窓口の御案内をさせていただひています。以上です。</p>
石井課長補佐	<p>今は小学校中心ですが、SOS の出し方教育も 1 校 2 校と広がりをみせているところで、今後も一緒に普及啓発ができたらと思ひます。よろしくお願ひします</p>
中川課長補佐	<p>高齢者支援課 尾川さん、御意見いただけますでしょうか。</p>
尾川委員	<p>高齢者支援課では、日頃から高齢者の孤立を防ぐ取組としてサロン等の居場所づくり、認知症カフェ等での相談窓口の紹介等があります。それ以外の介護予防事業の中でも、とくに対象者から相談がなくてもこちらから困難な状況にいち早く気付ひて、情報をキャッチするように、保健福祉課や病院等とも、必要に応じて連携をとっていきたくと思ひております。</p>
石井課長補佐	<p>ありがとうございます。高齢者支援課、地域包括の保健師さんや社会福祉士さんと協力して、情報の共有や連携もできてきているので、また今後も一緒に居場所づくりや相談窓口の普及啓発等に取り組めたらいいかと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
中川課長補佐	<p>健康推進員の湯浅さんお願ひできますか。</p>
湯浅委員	<p>直接どうなのか分からないんですけど、SNS での誹謗中傷への対策が入ってきてもいいのかな、と。</p> <p>それと、自殺という言葉をおもてに出していいんでしょうか。自殺と聞くと身構えてしまうところがあるのではという気もするんですけども。自殺ってという言葉をやうやく最近ちらちらと聞き出したかなという感じがありました。どういふ</p>

発言者	発言内容
中川補佐	<p>うに取り扱っていいのか、ちょっと分かりにくいところがあって、どんなもんかなという気はしていました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>SNS における誹謗中傷から自殺に至ることもよくあることと思うので、学校等では教育もされていますけれども、そこから自殺に至らない、悩みにつながらないような取組もまた検討したいと思います。</p> <p>それから、先ほど言っていた自殺という言葉に関して、国のほうも自殺対策大綱等で明確な形で示されていて、それに対する取組として、計画策定をして事業を進めているところです。住民の方に対しては、自殺というところを前面に出すと抵抗感を示される場合もありますので、一般的な心の健康であったり、ゲートキーパーというような、いのちを守るために見守りを、とお伝えすることもあります。今はうまく使い分けをしながら実施しているところです。</p>
長野委員	<p>基本的にオープンにしていく過程が、防止策の一つの大きな山になります。実際に「死ぬ気じゃないよね。自分で亡くならないでね」とオープンに聞いていくほうが良いとされています。何となくやんわりと匂わせるようなやり方というのは、一見よさそうで、亡くなった後のグリーフケアができなかったり、本当になくなるろうと思ったときに相談ができなかったりということになってくるので、基本的には、自殺という言葉をおもてに出しながら「自分で死んじゃ駄目だよ、ちゃんと生き抜こうね」というメッセージを出し続けることは、とてもいいと思います。とても勇気の要ることなんですけど、恐れずにちゃんと使っていくことが、大事なような気がします。</p> <p>ギリギリの方が来たときに、まず真っ先に声をかけるのは「ここまで生きてくれてよかった、ここで出会えたことをとてもうれしく思うよ、来てくれてありがとう」というのがまず一言目。生き続けるのはとても大変なことだし、消えたい、なくなりたい、死にたいという気持ちは常に出てくるけれども、何とか、寿命まで生き抜かないかな、一日一日生きてほしいんだ、それだけが願いなんだという声かけの仕方をします。</p>
佐尾委員	おっしゃるとおりです、私たちは、ゲートキーパーの講演会

発言者	発言内容
	<p>等、皆さんに御理解いただく機会に、自殺を考えるほど苦しんでいる人たちが安心して相談できる、誰であっても、近所の人であっても、町の人であっても行政の職員であっても安心して相談できるまちづくりが目的だと思っています。先生がおっしゃったとおり、自殺という言葉を出すことができない苦しい状況ではなく、安心して、自殺を考えざるを得ないような苦しい状況にあるということを相談できる体制やまちづくりが必要だと思っています。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございました。大いに参考になりました。</p>
長野委員	<p>いつもお疲れさまです。ありがとうございます。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございました。 消防署の保田さん、お願いできますか。</p>
保田委員	<p>私たちは救急で、未遂者や、すでに亡くなられた方を搬送する際、こちらに連絡する体制をとっています。未遂者の場合、家族にこういうところがありますよと簡単に言えるんですけど、既に亡くなっている人の家族に対して、その場でどう対応していいか悩む状況です。先ほど県立南宇和病院との連携を考えると言われたんですけども、もし良かったら県立南宇和病院からその家族に、こういうところがありますよと連絡してもらえたら、隊員としては有難いです。以上です。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございます。 残された家族への支援も今後必要になってくると感じていて、それをどういう場面でスタートするか、どういうところから紹介し、つながっていくか検討しているところです。町民課とかそういう手続きのところがいいのか、それとも医療機関がいいのか、ちらっと担当者の中では、お寺とかそういうところからの発信というのも一つの方法なのかもしれないと話合いもしたんですけど、今後の課題として検討していこうと思っております。</p>
長野委員	<p>残された自死遺族のサポートへの取組は、強化が絶対必要です。皆さん隠そうとされますし、やっぱり御家族の自殺のリス</p>

発言者	発言内容
	<p>クは数段上がっていますので、そこに何らかの形で情報提供されたり、看取って数日後に一本電話を入れたりする体制をつくっておくことは、その後の自殺を防ぐ意味でも大切になると思うので、ぜひまた協議できたらと思います。誰にも話せなくて隠してという方も多いです。その場面に遭遇してそのあとずっと付き合い続けることがケアそのものだと思いますので、ぜひそこも、次の自殺対策だということで、きっかけをつかめるようになるといいと思います。</p> <p>こういうデリケートで複雑な話題は、とにかく具体的に最後まで相談に乗り切る。ネットワークという形のたらい回しがとてもまずくなります。バトンタッチではなくて、重なり合うようなつなぎ方が必ず要りますし、あとタイミングですね、半日おくと相談ができないということもよくある。そうするとマンパワーが要るんですよね。今の保健師さんたち、フル稼働で動かれていますけれども、自殺の対策という視点でも人を増やしてトレーニングを繰り返していかないと、分かっているやれないというのがとてももったいない。これから人口が減っていく中で、こういう問題に関しては逆にウエイトは高くなっていくので、しっかりと予算を取りながら人をつけてトレーニングすることを考えていくことが重要かなと思います。以上です。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございます。 佐尾課長さん何かございますでしょうか。</p>
佐尾委員	<p>ちょっと元のところに戻るんですけども、14ページの生きる支援関連施策、とてもきめ細やかにいろんな施策をされてるのが良く分かります。ただし、先ほどの所属を外れた高校生、思春期の子供たち、義務教育の間は割と見守り体制があるんですけども、高校生の所属を外れた子どもたちの相談に乗っていると、どこに相談に行っているのか分からないって言われるのがよくあることです。思春期のお子さんあるいは御家族が、どこに相談に行っているのか、ちょっと御紹介いただけたら。もしないとしたら、今後検討いただけたら有難いかなと思います。</p>
中川課長補佐	<p>この生きる支援関連施策は、庁内の各課で自殺に関連した取組として上がっている項目です。所属を外れたお子さんに対する支援というのが、今はできていない状況です。先ほど御意見</p>

発言者	発言内容
長野委員	<p>もありましたので、また計画には盛り込んでいけたらと思っております。</p> <p>その際、メンタル不調をベースにした相談窓口ではとても狭くなります。やっぱり若い人たちの生き方相談というか、学校やめるんだけど、仕事とかどうだろうか、とか総合的な相談に持っていかないと機能しない。就職支援センターも含めて考えないと。学校をやめて愛南町にいることはとても心苦しいので、よそに行く方が圧倒的に多い。若い16歳、17歳の子たちがよそでアルバイトしながら家を借りて生きていくと言うんですよ。やっぱり生き方相談という中に、自殺のこともちゃんと分ってる。生活困窮もそうですね、どうやって経済をあてがうかだけでなく、生活困窮っていうベースでどうやってつないでいくかということなので、その間口を広げていくことはとても大事だと思います。やっぱり心の相談っていうところには、皆さん抵抗がある。特に元気な子が多い、反発してやめたとか。そういうメンタル不調での窓口ではとても機能しないので、初めから広げておくのは大事かもしれません。</p> <p>これも全部保健師さんでは無理なので、いろんな方を含めて、説教をするわけではなく受け止めて、どうやって生きていこうかと一緒に考える大人がいっぱいいるんじゃないかと思います。</p>
中川課長補佐	<p>ありがとうございます。</p> <p>その辺りともつながってくるかもしれないんですが、愛南警察の黒田さんお願いできますでしょうか。</p>
黒田委員	<p>やっぱり我々警察も消防の方と一緒に、そういった自殺的な事案が起こってからの対応がどうしても多いんですけど、皆さんの話を聞いて、やっぱり気付くことが大切だと思いました。</p> <p>資料にもあったように、自殺者の自殺未遂歴の有無っていうことで、未遂がないというのが多くて。私も拙い経験なんですけど、亡くなる方は誰にも見えずに亡くなっていることが経験としてもありまして、未遂とか薬を飲んでというのはメッセージを送っているところでまだ気付けることもあるんですけど。本当に亡くなる人は誰にも言えずにぱっとってというのがありますし、実際数値としてもあるので、やはり気付くことが大切だと思います。</p>

発言者	発言内容
中川課長補佐	<p>その前段階で警察が関われることはあまりないんですけど、例えば今、愛南町、全国的にも一緒ですけど高齢化社会で、独居の方とかも多いので、駐在所員が、巡回連絡という活動で悩みを聞いたりもしていますし、SNSのことに關しては、学校の依頼がありまして、小学校、中学校と高校のそういった情報モラル教室で、ネットいじめ、自殺につながるのそういった話もさせてもらっています。警察としても自殺を防ぐために關わることをやっていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。ありがとうございました。</p> <p>またいただいた御意見をもとに、今骨子の段階ですので、また計画のほうに盛込んでいく作業を進めたいと思ひます。そのほか何かございませんでしょうか。</p> <p>それでは、本日の協議を全て終了させていただきます。御協力ありがとうございました。</p> <p>最後に、事務局からのお願ひが一点ございします。</p> <p>受付時にお願ひしましたとおり、第2次愛南町総合計画が今年度で計画期間を終えることにより、現在、第3次愛南町総合計画の策定作業を進めています。この策定を進めるに当たって、懇話会等の会議の場で、人口減少に關する意見交換とかアンケート調査を行うことになっております。今回は自殺対策の検討の場でしたので、人口減少に關することについては、アンケート調査を行いたいと思ひております。町民を対象にしたアンケートになっておりますので、会場におられる委員さんにはアンケートをお配りしております。御協力いただき、会議の終了時に御提出いただくか、返信用封筒で郵送をお願ひできたらと思ひます。</p> <p>それから、プロフィールを資料の中に入れておるかと思ひますけれども、要回収の資料になっておりますので、机の上に置いた状態でお歸りいただけたらと思ひます。</p> <p>では、以上をもちまして、令和3年度 第1回愛南町自殺対策検討委員会を終了します。本日はありがとうございました。</p>